

うるおいプラス

山地 竜馬



口永良部島は人口約150人。信号がなく、警察官がない。喫茶店や居酒屋さん、パチンコ店、カラオケボックスもなく、コンビニや大型スーパーもない。保育所、高校、介護施設もない。役場の職員は1人いるだけで、町議は1人もいない。自動販売機は2台あり、商店も軒あるが、夜間や日曜日は閉まっている。



① 浴衣姿で打ち水をする北川瞳さん。「水をまくだけ。そんな気軽さが続けられる秘けつです」
② 今年21日に福岡市・天神で実施予定の打ち水イベントを担当する。「大勢の人がやってみようと思うものになりたい」と意気込む

フェリーは屋久島との間に1日1便運航しているが、島への物資は2日に1度だけ。欠航が増える冬季には、1週間ほど何も届かないこともある。医師と看護師は1人ずついるが、緊急時には漁船かヘリコプターで患者を島外へ搬送する。

人口150人 警官いない

「この島には、現代日本の日常にあるものがない。しかし、ないものがある。島に来て驚いたものの一つが、風呂だった。住んでいる湯向集落は私のほか、50代から80代までの住民が9人いるが、どの家にも風呂がない。源泉かけ流しの天然の温泉があるからだ。都市に住む人は「うらやましい」と思うかもしれないが、共同風呂なので掃除は自分たちです。週代わりを担当が回ってくる。男性は30分ほど、1人で黙々と浴槽をブラシてこする。みんなが入り終わった午後10時過ぎ。もちろん80代の男性もブラシを握る。女性は午前中、風呂周辺と

れにより1人の雇用が生まれる。でもひよっとしたら、そうすることで住民のつながりを断ち切ってしまうのではないかと。そんなふうにも思え、悩ましい。島の人は、新参者の私に「上がって茶でも飲まんか」と自宅に招き入れ、「ご飯も食べていけよ」遅

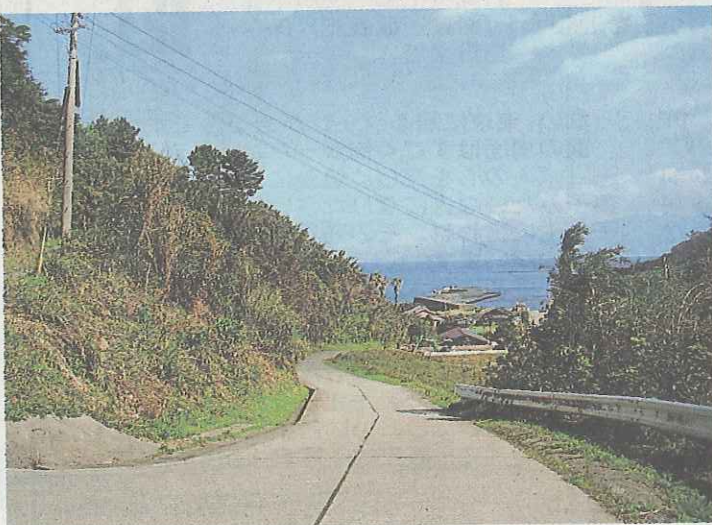
この島には、現代日本の日常にあるものがない。しかし、ないものがある。島に来て驚いたものの一つが、風呂だった。住んでいる湯向集落は私のほか、50代から80代までの住民が9人いるが、どの家にも風呂がない。源泉かけ流しの天然の温泉があるからだ。都市に住む人は「うらやましい」と思うかもしれないが、共同風呂なので掃除は自分たちです。週代わりを担当が回ってくる。男性は30分ほど、1人で黙々と浴槽をブラシてこする。みんなが入り終わった午後10時過ぎ。もちろん80代の男性もブラシを握る。女性は午前中、風呂周辺と

脱衣所の掃除をする。入浴料の徴収や掃除代の支払いは、区で管理している。私は「これこそ地域のつながりだ」と思って喜んで参加しているが、特に高齢の人たちには負担になっているようだ。温泉管理を区から独立し、私たちの法人で引き受けようとも考えている。住民も助かるし、そ

いから泊まっていかなんか」と当たり前のように声を掛けてくれる。そんな積み重ねで、濃密なつながりができていくのだろうか。しかしそれは、都会の人が考えるようなのどかな話ではない。島の自然や生活は厳しい。大雨で集落に土砂が流れ込み道路が封鎖されれば、自分たちが一

時的な復旧作業をしなければ、生活そのものができない。漁師は注文を受けていけば、多少のしけども海に飛び込む。「頼まれてることだから」と命を懸ける。現実が厳しいからこそ、

島の暮らしは人とのつながりが生命線になる。その現実を見つめながらも、私はその「島にしかないもの」に引かれてたまらない。(鹿児島県・口永良部島在住、一般社団法人「へきんこの会」代表理事)



信号もない道を行くと、その先に湯向集落がある

生

手軽にできる意識改革だと思えます。たくさんの人にやってもらえたら」
(佐々木直樹)